

地盤の不等沈下によるテールアルメ壁への影響

テールアルメ壁はフレキシブルな構造であり、ある程度の不等沈下は許容できる。以下に、沈下が発生することによる懸念事項について述べる。

1. 外観上の問題について

沈下による壁面の変状は、構造上の問題がなくても、その外観上から圧迫感、不安感を増大させる恐れがある。沈下による変状は、不等沈下によるコンクリートスキン同士の接触からくるクラック、目地のひらき等がある。

2. 基礎工、スキン(壁面材)への影響

テールアルメ壁の基礎は、テールアルメの荷重を支えようとするものではなく、コンクリートスキンを水平に設置するための簡易なものである。このため局部的な沈下が発生することにより、基礎にクラックが発生する可能性がある。またスキン同士がせりあい、かど部分等にひび割れが発生する場合がある。

3. 施工上の問題点

テールアルメ壁の壁面材は空積であり、ある程度の変位を許容することができる。しかし、施工中にある程度以上の変位が発生すると、壁面材の組立てが困難となる。このような場合はジベル芯を曲げたり、シーす穴を広げるなどの対処が必要となる。

